

「一番愛しいもの」

島根県 長見寺住職 藤島義信
ちようけんじ ふじしまぎしん

お釈迦様のみ教えに、「このような言葉があります。」どこを探しても 自分よりもさらに愛しいものを見出さなかった。そのように他人にとってもそれぞれの自分が愛しいのである。それ故に自分の為に他人を害してはならない」とあります。

皆さんは、自分の事を「愛しい」と思ったことがありますか。私には、そう思えたある出来事がありました。数年前親戚の法事で、久しぶりに叔母に会った時の事です。叔母は、ある写真を私に見せてくれました。それは私の赤ん坊の頃の写真でした。そこに写っている私は満面の笑顔の母親に抱かれ、お寺で生まれた子らしく、左手には数珠を握り興味深そうに その数珠を見つめていました。

自分で言うのもたいへんおこがましいのですが、その写真の私はとても可愛かったのです。私は遠い昔の自分がとても愛しく、胸が熱くなる思いがしたのです。それはただ単に可愛いただけではありません。こんな小さな子が一人で生きていけるはずもなく、親、家族をはじめ多くの方々のおかげで、今こうして存在できていることに改めて感謝の気持ちが湧いてくるのです。

また、頑張つて今日まで生きてきた自分自身を、たまには褒めてもいいのではないかという気持ちにもなりました。これからも感謝を忘れず精進せよと、幼き自分に励まされていくようでもありました。母親に抱かれた幼き頃の自分に出会い様々な思いが去来する中、思わず涙さえ出てきそうなほどの感情がわくのです。自分自身がとても尊い存在であることが確認出来た、そんな瞬間でした。

お釈迦様は、自分よりもさらに愛しいものを見出さなかったとおっしゃいます。だからこそ、人それぞれが尊い命をもった存在だと気づかれたのです。一人一人が尊い「自分」であるからこそ、人を傷つけてはならないとお釈迦様は説かれます。世界は今、命の尊厳が損なわれる事態を目の当たりにしています。私たちは、一人一人が、愛しく尊いかけがえのない存在であることを、今一度知る必要があります。

皆様は、自分のお子さんや、お孫さんの小さい頃の写真をたくさんお持ちだと思いませんか。しかし、ご自身の幼い頃の写真となるとどうでしょうか。機会があればぜひご覧になって、幼き自分と出会ってみませんか。かけがえのない「一番愛しいもの」がそこにはあるはずですよ。